英語俳句とは・・・

日本語で俳句を創るときには「季語を入れること」「5-7-5」といったルールがありますが、英語俳句は英語の現在形で自由に創る三行詩です。

頭ではなく、心と身体で感じる“今、ここ”を一枚の絵を描くようにして、身近な単語を並べていきます。雑然とした文章で述べるのではなく、名詞で鮮明な印象を伝えます。

まず一番伝えたいものを一つ決め、それに別のものを一つ添えます。二つの間の緊張感から生まれる詩が英語俳句です。一息で読めてしまう短さなので、共感できる題材を入れて読者を引き込みましょう。

毎日の生活の中で誰でもが気付く、季節の花や食べ物、服装や気候などの変化を取り込んでみましょう。

英語俳句を創るためのポイント

1）動物や虫、植物を擬人化して物語を創るのではなく、その動物や虫が存在する季節の中に自分もまた生きているという一体感を味わいます。

2）俳句はみんなの詩形です。身の回りにある美しいもの、面白いもの、びっくりすることなど、全てが俳句の種となります。“あっ、わかるこれ！”の共感を楽しんで下さい。

3）小文字で始めて、終わりに終止符を打たないスタイルが主流です。
（※固有名詞は大文字となります）

4）行の終わりにダッシュ（―）やエリプシス（...）を置くことで意味の切れ目を創ることが出来ます。

例）
wrinkled faces
in the hospice window ―
bursting buds
「ホスピスの窓に　しわの寄った顔々―　　ほころぶ莟（つぼみ）」

5）形容詞、副詞は省き、動詞も省けるものは省きます。俳句では名詞が主役です。動名詞を上手に使って動きを「～すること」と名詞形で表すことも出来ます。

上記のようなルールを考えながら創作しますが、まずは感じたこと、思ったことを自由に表現してみましょう。

監修／宮下　惠美子（国際俳句協会）

指導者へのアドバイス　（実際の創作の前に）

1）数多くの秀句を詠むことで、その短さ、言い切らないで見せる手法を学びます。また英語俳句のリズムを味わうために音読をお勧めます。

2）一つの単語（例えば snow）に連想される「降る」「白い」「冷たい」といった情報を箇条書きにし、動詞や形容詞を入れて情報が重複しないようにしましょう。

例）「snow」:→①降る（come down）／②白い（white）／③冷たい (cold) は入れない

3）英語俳句は脚韻[※注1]を踏みませんが、鋭い s の音、力強い d の音、柔らかい m の音など、同じ子音を繰り返すことで、一句にある印象を与えることが出来ます。同じ子音で始まる単語のリストを作ってみましょう。また、同じ季節の単語リストを作ることも句材を見つけるのに役立ちます。

例）[summer] ice cream, swim, sun flower, goldfish, mosquito, evening glow, etc….

4）作者が何を見てどう感じたかという結果報告の俳句は“あっ、そう。”で終わりです。読者の体験や想像力を呼び覚まし、あるいは、当たり前のことで今まで気づかなかったことを見せてくれる句が面白い句です。また俳句では普通、時間の経過ではなく瞬間を捉えます。

5）よい句の他にも問題句を挙げ、生徒たちと一緒に考えてみることも有効でしょう。

例）　a cold rainy night in November
under a street lamp
I saw the dancing snowflakes in its light
「11 月のある冷たい雨の夜　街灯の下で　私はその光の中に舞う雪片を見た」

【解説】

まず、長すぎます。

11 月は寒いので cold は省けます。street lamp とあるので night も in its light も省けます。雪片もひらひらと舞うように降るので dancing は不要です。

俳句は作者の五感を通して体験したことを表す詩形ですので、I saw と断る必要はありません。また動詞が過去形だといつあった事なのかはっきりしません。臨場感は現在形から生まれます。

以下は、元スウェーデン俳句協会会長カイ・ファルクマンさんの作品です。

例）　November rain
under the street lamp
snowflakes　　「11 月の雨　街灯の下に　雪片」

11 月の雨が雪に変わる瞬間を捉えた句です。本格的な冬の到来を実感します。読者も同じ様に寒さの中で街灯の灯を見上げている感覚になりませんか？この句はもともとスウェーデン語で創られて英訳されました。英語は俳句の世界共通語でもあります。

※注1 脚韻･･･詩歌で、文末・行末に同音の語を置くこと。西洋の詩では近接する行末に同一音ないし類似音をそろえる。

監修／宮下　惠美子（国際俳句協会）

英語俳句作品（例）

高校生用

Summer camp
laughing in a language
not yet mine

（直訳）
夏合宿
まだ自分のものではない
言葉で笑う

Early winter dawn
Heavy bags,sleepy eyes
coach counts us twice

（直訳）
初冬の明け方
重いかばんに眠たい目
コーチは私たちを二度数える

On the way back home
I recall the flower's shape
But not its true name

（直訳）
帰り道
花の形は浮かんでも
本当の名は出てこない

Spatula in hands
Flipping pancakes like a pro
One lands on my cat

（直訳）
フライ返しを持って
プロのようにパンケーキを返す
１枚が猫に当たる

first date
wrong shoes
can't concentrate

（直訳）
初めてのデート
この靴じゃなかった
ずっとうわのそら

I wake up in the night
I know my host dad
is eating ramen

（直訳）
夜中に目が覚めて知る
ホストファーザーが
ラーメンを食べているのを

cold night
flood light
vending machine

（直訳）
寒い夜
街灯ひとつ
自販機ひとつ

Sea
perched on a large rock
Remove sand from shoes

（直訳）
海
大きな岩に腰かけて
靴から砂をとりのぞく

A walk in the park
Always popular
My dog

(直訳）
公園を散歩
いつも人気なのは
わたしの犬

伊藤園 お~いお茶 新俳句大賞 応募学校紹介

英語俳句編

前回ご応募いただきました学校の先生方に、新俳句大賞の取り組み方や効果等についてお聞きしましたことをご紹介させていただきます。

＜冬休みの課題に最適＞

聖心女子学院中等科　三村彩花先生

応募のきっかけは、新俳句大賞の英語俳句が副教材に掲載されているのを見て、「我が校でも取り組んでみよう」ということだったと思います。毎年１・２学年の生徒全員を対象に冬休みの課題として出題、第二十四回から継続応募しています。

生徒には、インターネットの情報を参考に作成した英語俳句の創り方と、事例作品として当校の受賞作品などをプリントして渡しています。英語俳句は、創作において日本語俳句より自由度が高いので、子供たちも新鮮に受け止めているのか、英語俳句の創作経験の無い１年生でも抵抗なく取り組めるようです。特に２年生になると慣れてくることもあり、よりスムーズに創作しています。

我が校では、英語授業以外に、大学や新聞社が主催する英語スピーチの大会に、自由参加でエントリーしていますが、英語俳句は気負いなく取り組める点が良く、冬休み課題に最適だと思いますので、第三十え回も引き続き応募したいと考えております。

＜楽しみながら英語に触れることができるいい機会＞

佐世保市立福石中学校　萩原 一恵先生

３年生は受験、１年生は英語にあまりなじんでいないということもあり、２年生を対象に取り組みました。表現力豊な生徒たちをさらに強化するということが最大の目的でした。生徒たちは英語の教科書の中に出てくる詩には触れたことはありましたが、英語での俳句というのは初めてでしたので、これまでの入賞作品や英訳された有名な俳句を事例として説明しながら授業のカリキュラムとして創作させました。

特に心がけさせたことは日本語の俳句と同じように説明するような文章にしなくていいということ。その情景をイメージさせたり、自分の気持ちを表現するのに相応しい単語は何か考えさせながら詠ませました。

自分たちが作った作品を新俳句大賞に応募し、受賞した作品が商品に掲載されるということなどが生徒たちの創作意欲をかきたてたということもありましたが、生徒たちに英語に楽しみながら触れる機会が持てたことはとてもよかったことだと思います。次回も参加できればと思っています。

＜継続的な創作で、俳句のレベルアップを図る＞

星美学園中学校・高等学校　渡邉昭宏先生

中学３年から高校２年生までの生徒全員を対象に、毎年冬休みの課題として取り組ませております。

中学は通常の英語、高校は「英語表現」の授業の中で表現活動の一環として英語俳句のルールを説明し、作品例、新俳句のホームページも活用しながら創作活動を行なっています。

本校では長年に亘り、短歌や俳句の創作に取り組んでおり、年度ごとの優秀作品を集めた『星美百人一首』はまもなく25周年を迎えようとしています。短文の創作活動が生徒たちの日常生活に組み込まれておりますので、英語俳句の世界にも抵抗なく入っていけるようです。

また、英語俳句は短い文や単語の組み合わせで構成されているため、英語が苦手な生徒でも取り組みやすいという点にも注目しています。意外な生徒がキラリと光る作品を創るケースもあり、生徒たちの新たな一面を発見する機会にもなっています。

英語俳句の世界を通して、今後も生徒たちの豊かな感性を育んでいきたいと考えております。

＜英語が得意でない生徒の興味喚起にもつながります＞

浜松商業高校　小原百合子先生

英語俳句を英語表現の授業の１～２時間で取り組んでいます。授業では、最初に新俳句大賞の授業用教材資料にある英語俳句の基本的なルールを説明、併せて前回入選した作品の一部をプリントで配布し、その句はどういう情景を詠んだものか、作者はどんな気持ちだったのかをグループで話し合って鑑賞します。

このプロセスにより、生徒たちの想像力が高まり、数単語で驚くほど奥行きのある情景や気持ちが表現できることを実感します。その後、創作するときには、説明的にならない、日常生活をテーマにするなどのポイントを伝えます。

新俳句大賞への応募を通して、生徒は英語を自分の言葉として使う機会がもてます。また素直な気持ちを詠むことが大切なので、必ずしも英語の成績が良い生徒が選考されるのではなく、英語の不得手な生徒にもチャンスとなり、英語に興味を持つきっかけになっていると思います。